

京都の散歩道 (4) 本能寺の変——明智軍の進軍ルート

日本歴史上の最大の謎とも称される“本能寺の変”は、天正10年6月2日（1582年6月21日）未明の出来事でした。中国地方の「毛利氏の軍勢と対峙する羽柴秀吉に加勢するため、わずかな近習を連れ京都・本能寺に滞在していた織田信長を、おなじく中国攻めに加わるために大軍を率いて本拠地・丹波亀山を發した明智光秀が急襲し、信長と嫡男・信忠を殺害」⁽¹⁾しました。光秀の動機には諸説あって議論が続いていますので素人が立ち入ることは避け、ここでは明智軍の進軍ルートだけを話題にします。なお進軍前の5月28日、光秀が愛宕山に登り「時(土岐)は今、雨(天)が下しる(命令)五月かな」と揺れる心を詠んだことも有名ですね。



光秀が本能寺に向かったのは上図で赤く示した山陰道に沿ってです。ただし、「古代山陰道のコースについて実ははっきりしない。平安京羅城門を起点として大繩手を西行して桂川を横断、檜原、大枝、王子（亀岡市）に至っ」⁽²⁾たとのこと。明智軍は本来中国攻めなら沓掛から南進するところを東進しました。山陰道は、桂駅から京大桂キャンパスに向かうバス路線と2回交差します。当時は桂川に橋もかかっておらず、有名な「敵は本能寺にあり」という言葉はこの桂川で発せられたと、頼山陽の『日本外史』にあるそうです⁽³⁾。桂川を越えて東側は平安京の区画も残っていたかもしれませんが、図中で点線表示した直線路は根拠に欠けるのではないかと思います。なお、現在の本能寺は三条河原町のバス停そばにあるので誤解しがちですが、当時は四条堀川の少し北東側（中京区元本能寺南町）にありました。最後に、本件に関連して楽しめる記事⁽⁴⁾や映像⁽⁵⁾を付記します。

(1) 週刊新発見！日本の歴史、1号（朝日新聞出版2013年6月11日）

(2) <https://ja.wikipedia.org/wiki/山陰道>

(3) <https://ja.wikipedia.org/wiki/本能寺の変>

(4) 6月2日は「本能寺の変」明智光秀の進軍ルートをたどる 記者3人で夜通し25キロ、
<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/257341>

(5) 【車載動画】京都古道7 旧山陰道【千本七条～亀岡】
https://www.youtube.com/watch?v=1qZEeXa_q_Q&t=143s